

2018年JAF中国ジムカーナ選手権第7戦 2018年JMRC中国ジムカーナチャンピオンシリーズ第7戦
2018年JMRC全国オールスター選抜第7戦 2018年JMRC中国フレッシュマンシリーズ第7戦
ヒノデテクニカルジムカーナ・ダンディA [JAF公認No.2018-4026]

開催日：9月9日 開催場所：TSタカタサーキット 格式：準国内 主催：HINODE・C[クラブ登録No.加盟34025]、CCN[クラブ登録No.加盟35005]

レポート／勝森勇夫 フォト／吉見幸夫

上程恒夫CR-Xが最終戦を制してシリーズ王座確定!



2ヒートめでクラス唯一の26秒台を出し、文句なしの優勝となった上程恒夫選手。

全

7戦が組まれた2018年のJAF中国ジムカーナ選手権もいよいよファイナル。これまでBRKクラスの坂井一弥選手、BR4クラスの難波信善選手、PN1クラスの高屋隆一選手、PN2+クラスの松村正吾選手、SA2クラスの佃真治選手、CDXクラ

スの原和正選手がすでにシリーズチャンプを決めており、残すはBR2クラスとSA4+クラスのみ。もちろん、2位、3位はまだ確定していないクラスもあって、最後まで目が離せない。

アタック当日の9月9日、フィナリストエージとなるTSタカタサーキットは早朝から雨に

なった。スタート時刻が近づくほどに雨脚は強まり、路面は超ヘビーウェット。思わぬ悪天候にスケジュールも押し気味になる中、10時25分過ぎ、ようやく第1ヒートがスタートした。コースの所々に深い水たまりがで、視界もままならない。タイヤが思うように温まらず、ス



BR2クラス／1.影山幸輝選手は2ヒートめで2秒656タイムを縮めたものの、あと一歩及ばず2位となった。2.2ヒートめでタイムが伸び悩んだ中本信一選手は3位に。3.BR2クラス入賞者の皆さん。



SA4+クラス／4.スポット参戦ながらも見事1位に輝いたのは石原秀晃選手。5.SA4+クラス入賞者の皆さん。6.多田淳選手は2位という結果だったがシリーズチャンピオン3連覇を達成。7.佐藤忍選手は3位入賞。



8.Fクラスで2位の足立孝貴選手。9.中田匠選手はFクラス3位。10.Fクラスで1位のたにもと章則選手。11.吉崎太郎選手はBRKクラスで2位。12.BRKクラス3位の坂井一弥選手。13.東輝男選手はBRKクラスで1位を獲得。14.BR4クラスで1位の迫谷政則選手。15.日高洋選手はBR4クラスで2位。16.BR4クラス3位の藤木誠選手。17.高屋隆一選手はPN1クラスで見事1位。18.PN1クラスで2位の内田敦選手。19.藤井雅裕選手はPN1クラス3位。20.PN2+クラスで2位の山下友秀選手。21.小田雅史選手はPN2+クラス3位。22.PN2+クラスで1位を獲得した徳永秀典選手。23.片山賢一郎選手はSA2クラスで2位。24.SA2クラス3位の柏野吾選手。25.佐藤一樹選手はSA2クラスで見事1位に。26.CDXクラスで1位に輝いたのは原和正選手。27.田丸伸也選手はCDXクラスで2位。28.CDXクラス3位の古本アヒロ選手。

ピンしたり、コースアウトする選手が相次いだ。今回用意されたコースは、左コーナーが主体となる反時計回りのレイアウト。タイムを左右する最大の難所はちょうどコースの中盤あたりに設けられた、スラローム&フリーフルターンだ。直線的に、等間隔に並べられた3本のパイロンのうち、どこかひとつでフルターンを行い、残りをスラロームで通過する。

2速キープで入っていけるイメージのスラロームで、タイミング的には、2速で走れる距離が長くなる一番奥のパイロンでターンするのが最も効率的と思われる。しかし、スピードが乗る分、ターンでミスする可能性は増えるため、選手にとっては悩みどころとなった。

最終戦までシリーズチャンプの行方を持ち越した注目のBR2クラスは、シリーズを頭ひとつリードするベテラン上程恒夫選手がまずはトップで1ヒートを折り返す。2番手はシードの中本信一選手、3番手には影山幸輝選手が入り、シリーズ争いで2位につける尾崎則夫選手は未完走となり一歩出遅れた。

午後に入り、激しかった雨も徐々に下火に。BRKクラスがスタートする頃には、路面コン

ディションも回復へと向かい始め、その後はほとんどの選手が軒並み1ヒートを上回るタイムをマーク。BR2クラスでは7番手出走の影山選手が上程選手の1ヒートを1秒上回るタイムを叩き出して暫定トップに躍り出る。しかし、続く上程選手も負けてはいない。守りに入ることなくアクセルを踏み続け、勝負どころとなるスラローム&フルターンも、リスクの高い一番奥でのターンをきっちり決めて、自己1本目を5秒半以上も詰めてフィニッシュ。再びトップに立ち、シリーズチャンプを確定させた。

「今日は、逆に雨に助けられた感じです。1本目からいい感触で走れました。あと、影山君に感謝です。彼が2位に入ってくれたおかげで、尾崎選手とのポイント争いをかわせました」と上程選手。一方、影山選手は「今年は参戦数も少なくあまりいいところなかったけど、この条件で2位は収穫。雨でもそこそこ走れる自信がつかました」と振り返った。

そしてもうひとつ、シリーズの行方が際どく持ち越されていたSA4+クラスは、スポット参戦の石原秀晃選手が勝利。2位には、シリーズポイントリーダーの多田淳選手が1ヒートの

タイムを8秒以上縮めて入り、シリーズ3連覇の偉業を成し遂げた。「1位でシリーズを決めたかったけど、贅沢は言えません。3連覇は純粋に嬉しいです」と多田選手。

一方、シリーズ1位はすでに決定しているものの、2位争いが熾烈だったのがPN2+クラスだ。1ヒートを終え、オーダーはシリーズ3番手の山下友秀選手、四国からスポット参戦の徳永秀典選手、シリーズチャンプを確定させている松村選手の順で、シリーズ2位の石井拓選手は痛恨のミスコース。山下選手が逆転でシリーズ2位浮上かと思われたが、2本目に入り徳永選手が1本目のタイムを5秒以上縮めて一躍トップに。結局、山下選手は順位で石井選手の上を行くも、優勝を逃したことにより、僅か2ポイント差で2位浮上を阻まれた。

1位の徳永選手は「今日の勝因は、出走前の時間がたっぷりあり、皆さんの走りをじっくりと見て参考にできたことです。おかげで自信をもってアクセルを踏めました。飛び入り参加でポイント争いの邪魔をしたのは申し訳なかったけど」と謙遜気味にコメント。ちなみにマークした1分22秒795は、雨が苦手なFR車の中

ではこの日のダントツタイムとなっている。



29.Fクラス入賞者の皆さん。30.BRKクラス入賞者の皆さん。31.BR4クラス入賞者の皆さん。32.PN1クラス入賞者の皆さん。33.PN2+クラス入賞者の皆さん。34.SA2クラス入賞者の皆さん。35.CDXクラス入賞者の皆さん。